

## 田中4連覇で有終の美 ー史上4人目の快拳

天皇杯全日本レスリング選手権

田中主将は、国内大会負けなしで臨んだ天皇杯全日本レスリング選手権(12/21～23、代々木第2体育館)でも会場を沸かせた。圧倒的な試合運びでフリースタイル(以下フリー)120kg級を制し、同大会4連覇を達成した。大学4年間での4連覇は史上4人目。

今年度は学生4冠に加え、国体、全日本選手権そして今回の天皇杯と、7タイトルを独占。「日頃の練習の成果を発揮出来たから勝ち続けられた」と話す。頂点に立ちながらも常に上を目指し、謙虚に日々の練習をこなす姿勢こそが彼の魅力だ。今大会から導入された世界基準の新ルールに対しても「筋力、体力のアップで適応出来た」と語る。

昨春のアテネ五輪予選でこそ苦渋を味わったが、確実に世界との距離を縮め、4年後の北京五輪に向け、期待が高まる。夢の実現を目指し、オリンピックロードをひたむきに突き進む田中主将。学生としての試合は終わったが、今後の彼からまだまだ目が話せない。

また今大会では、フリー55kg級で稲葉泰弘(経営1・霞ヶ浦高)が、フリー120kg級で北村克哉(商1・日本工業大付東京高)が3位に入賞するなど、1年次生の活躍も光った。

(松本 旬平・経済2)

---

## 全日本大学レスリング・グレコ制し田中が学生4冠達成

60kg級で岩崎健太準優勝、団体4位

12月10日に駒沢体育館で行われた全日本大学レスリンググレコローマン選手権で、田中主将が96kg級で優勝し、史上6人目となる学生タイトル4冠王に輝いた。最多フォール賞も獲得し、他の追隨を許さない強さだった。

また、60kg級で岩崎健太(経済3・専大北上高)が準優勝し、団体でも4位となった。

---

## 男子惜しくも準優勝

中川が敢闘賞、波多野が優秀選手賞

全日本学生バスケットボール選手権(男子)



男子の全日本学生バスケットボール選手権が11月29日から代々木第2体育館他で行われた。順調に勝ち進んだ専大は12月5日、決勝戦で慶大と対戦し、72-77の僅差で破れ、準優勝。個人では中川和之(経済4・豊浦高)が敢闘賞を、波多野和也(経営4・静岡学園高)が優秀選手賞を獲得した。

初戦こそ硬さも見られたが、勝ち進むにつれ集中力も増し、圧倒的な支配を見せつけた。準決勝の拓大戦では「昨年度敗れた相手だけに序盤から高いモチベーションで入れた」と中原雄監督が言うように、堅い守りから得意のスピーディーな試合運びで一気にリードを広げ、決勝へ弾みとなる最高の内容で前半を終えたが、後半にチームの要・大宮宏正(経済3・作新学院高)が負傷退場。昨年のリベンジを果たしたものの、決勝へ大きな不安を残してしまった。

決勝戦は、中川(和)を中心とした気迫溢れるディフェンスで相手を封じ、リードを奪う。しかし、次第にファールが重み、思うようなプレーが出来ず、インサイドを支配される。それでも、代わって出たプレーヤーが踏ん張り、第4Qを5点リードで迎えるが、相手の勢いの前に敗れた。ケガ、ファールアウトなど、満身創痍の中で戦い抜いた選手たちの目には涙が浮かんでいた。

目標の大学3冠は達成出来なかったが、中川直之(商4・豊浦高)は「今までの4年間は今大会のためにあったような気がする。楽しかった」と、チームが一つになって戦った今大会が充実したものであったことを話してくれた。

この勢いで臨んだ全日本総合選手権(1/2~10、代々木第2体育館)では、1回戦で東京海上日動(JBL11位)に109-65で快勝。2回戦でトヨタ自動車(同6位)に破れたものの、JBLチームから白星を挙げ、大会を盛り上げた。  
(松本 旬平・経済2)

---

## 女子 善戦も5位

川村が3P王を獲得

全日本学生バスケットボール選手権(女子)



女子の全日本学生バスケットボール選手権が11月29日から12月5日まで代々木第2体育館ほかで行われ、専大は5位となり、川村良子(文4・東京成徳大付高)が3P王を獲得した。

大阪体大、愛知学泉大を下し臨んだ筑波大(関東1位)との準々決勝は、壮絶な死闘となった。事実上の決勝戦とも言われたこの試合、常に後手後手に回る苦しい展開と

なるが、終了1秒前に長南真由美(経営4・山形市立商高)の3Pシュートで同点とし、延長戦にもつれ込む。延長でも先攻されるが、残り3秒に今度は伊藤千佳(経営3・市立柏高)のシュートで再び同点、再延長へ。両者ともに一歩も引かない展開となったが、力及ばず、86-90で敗れた。

5~8位決定戦は連勝し意地を見せたが、筑波大が優勝しただけに児玉茂監督の「勝たせたかった」という言葉が、悔しさを物語っていた。

また、全日本総合選手権(1/2~10、代々木第2体育館ほか)は、1回戦で東京海上日動(wJBL9位)を相手に善戦したものの60-65で破れた。  
(久我 智也・文2)

---

## あくなき挑戦！ NBA入団が夢

人-Zoom UP

中川 和之(経済4)



専大に数々のタイトルをもたらし、1年次からチームの先頭を走ってきた中川和之の、米独立リーグ(ABA)所属のロングビーチジャムへの入団が決まった。インカレを終えた翌日、単身渡米し、チームに合流。早速12月10日、ポートランド戦にスタメン出場すると、デビュー戦ながら18分プレーし、5得点2アシストと、期待に応える活躍を見せた。

契約書を渡された瞬間を「夢のようだった」と話す。決して入学当初から米国を意識していた訳ではなかったが、きっかけを与えたのが中原雄監督だった。「高校時代は別の世界の話、大学に入ってからもそう思っていた。でも、監督に視野を広げてもらいました。米国での近い世代の活躍を聞いたりしたことが刺激になりました」。2年前にはマイナーリーグに挑戦。当時は意識が低く、散々な結果で帰国を余儀なくされた。相手にやられた訳でもなく、ただ自分のプレーが出来なかった。その悔しさをバネに世界への飛躍を決意。昨年5月の李相佰杯で日本学生選抜に選ばれ、「ようやくチャンスが回ってきたと感じた」と言う。今回のトライアウトは最初、大宮宏正に参加のオファーがきていたが、自らチャンスをつかみ、合格を果たした。「手応えはあった。転がり込んできたチャンスだけに絶対に放したくない。環境への対応力は人一倍あると思う。米国でもやっていく自信がある」と、決意を語る。

しかし、プレースタイルを変える訳ではない。攻撃力に磨きをかけパワー、スピードとグレードアップを目指す。チームメイトも口を揃えて、「カズならやってくれるはず」と期待する。

モットーは「挑戦」。果てしなき高みを目指し、今日も大好きなバスケットに磨きをかける。ABA進出はあくまで、NBA挑戦のステップ。次にNBAのコートに立つ日本人は彼かもしれない。日本の大学バスケット界を沸かせたプレーがアメリカを賑わす日も近い。

(松本 旬平・経済2)

